



## 「変わっている」は「変」なのではなく その人の個性。 自分をしっかり持ってほしいですね。

### プロフィール

フィンランド人でキリスト教の宣教のため来日した両親のもとに生まれる。大津市にある日本フィンランド学校の第一期生。11歳で自身もキリスト教に目覚め、16歳の時、両親と同じ宣教師の道を進むことを決意。音楽(ジャズピアノ)を勉強後、ハワイの聖書学校に進む。現在、守山キリスト福音教会を拠点に宣教師として活動するかたわら、国際理解や男女共同参画をテーマにした講演を行っている。

### 日本、そして滋賀県に来られたきっかけを教えてください。

両親が宣教師として日本にやってきて、そこで結婚して私が生まれたんです。だから日本で生まれ育ったんですよ。両親は、それぞれ27歳と29歳の時に世界宣教の夢と使命に燃えて、仲間と船で南の島を行き渡りながらアジアにやって来ました。その船の上で知り合い、インドで婚約して、日本で結婚しました。だから私は日本で生まれて育ったんです。

当時は、北欧から宣教師が大勢来日していて、それぞれの国で地域をわけており、フィンランド人は関西で活動をするようになったんです。両親は、最初京都の日本語学校で1年間勉強して、その後、滋賀へやって来ました。滋賀は今もそうなんです、日本でも教会の数が比較的少ない場所なので、「開拓伝道」と私たちは言うのですが、教会未設置地区へ行くと、そこへ教会を建てていたのです。

### 大津に日本フィンランド学校があるのも、それがきっかけなんですか？

そうです。実はフィンランド学校は私のために作られたみたいなんなんです。当時、関西に留まったフィンランド人の宣教師たちの子どもが2人いて、その子たちは、最初の1年間はフィンランド人としての教育をお母さんたちが家で教えていたんですよ。けれども、私が1年生になる年に、フィンランドから先生に来てもらおうということになりました。その先生が、当時できたばかりの大津キリスト福音教会の建物に住んで授業をしていたんです。1年生から入ったのは私が一人目なんです。その後、大津市田上に学校を作ることが出来ました。

### 人数が増えてきて、学校として創立されたんですね。

そうです。フィンランドの文部省が、正式な学校として認めて協力してくれるようになり、また日本でもいろいろの権利を得られました。

### フィンランドから先生を呼び学校を作るなんて、お母さん方の「フィンランド人として育てたい」という情熱を感じますね。

そうですね。フィンランド人としての誇り、文化を伝えたいと考えていたと思います。また、日本全国に一つしかない学校が、京都や神戸ではな

く、あえて“滋賀”というのは、まさにフィンランド人らしいところです。フィンランド人はあまりグループを作りたがりません。独自の考えで行動することを大切にしています。世界中で活動していて、フィンランド人のいない国はないくらいです。

また、フィンランドは“森と湖の国”なので、子どもたちには自然の中で勉強させたいという思いもあったと思います。琵琶湖と山がある大津にすごく共感したみたいですね。

### こちらで伝道活動をされるようになったのはおいくつぐらいからですか？

結婚する前、22歳の時からですね。大津で始めました。私の小さい時から両親が滋賀県のあちこちで建ててきた教会に赴任させてもらってね。私が小さい時、母がよく枕元に来て泣きながら言っていました。「ねえカテリーナ、あなたたちにはいろんな苦勞をさせて普通に暮らせる生活だったら楽だったのに、ごめんなさいね」と。「でも残せるものが二つある。それは、神様に対する愛と日本宣教に対する情熱。これをもらってちょうだい」と言っていました。

伝導に並々ならぬ情熱を注いでいた両親は、日本の伝導活動には、日本人の生活に近づかなくてはならないと強く考えていたようで、食事は、日本茶、みそ汁にご飯を費していました。今は、オーストラリアで生活していますが、日本を去るときに、父が「本当は緑茶はあまり好きではなかった」と告白したときは、ほんとうに驚きました。

### 日本でフィンランド人として育てられて、フィンランド人と日本人の違いを感じておられると思うんですが。

大きな違いは、「個」で生きること、「共同体」で生きることでしょうね。この教会では保育園もしているんですけど、神様の前で一人ひとり、唯一の存在である自分自身を大切にしようという聖書の教えを基本にしています。神様と個人の結びつきなんですね。また、フィンランド本国の教育のモットーは「その子どもの個性をその子どもに見つけさせて、そのお手伝いをする。そして、高等教育が始まる前、高校に入学する前の16歳ぐらいまでに、自分の職業をその子が選べるようにすること。その子の個性を最も伸ばせるような仕事を選ぶ助けをする」ということです。そして、仕事は自分の受けてきた教育を生かして自分の人

生を自分で決めるためのもの、と考えているので、生涯現役、退職という感覚はありませんね。

日本の教育の目指すところは、みんなで共同活動ができるようにすること、それを一番よく表しているのが運動会でしょうか。

### 日本の教育も「個性を伸ばす」という方針を立てていますが、なかなか難しいようです。

「変わっている」と「変」は同じ漢字ですよ。だから学校などで話す時に、よく言っています。「変わっている、は変じゃない、変わっているは個性や！」って。それと、日本の教育で感じるのは、命についての教育が少ないことですね。命の尊さや命のつながりを子どもたちに教えることが、自分自身も大切に感じることに繋がっていくと思います。

### これからの夢や目標は？

もちろんキリスト教の伝道です。まだ滋賀県に教会のない町があるので、日本の若い人たちがキリスト教に目覚め、両親の作ってきた教会の枝教会を作ったり、それをお手伝いしたいと思っています。

それから、子育てから手が離れたので、大好きなジャズピアノをまた弾いていきたいと思っています。ジャズピアノをとおして、宣教活動も広げていきたいですね。

### 最後に、滋賀県の人にメッセージをお願いします。

日本の中のたったひとつの滋賀県として、滋賀県だけの個性を大切にしてほしいですね。自分の個性を大事にするということは、人の個性をも大事にするということにつながります。

また、日本の女性にはもっと自分自身をしっかり持って生きてほしい。夫あつての自分とか、子どもがいての自分ではなく、自分の生き方を自分で決めてほしいですね。そして、社会がそのような社会になってほしいです。例えば、フィンランドでは、子育てという大切な時間を女性と同じように男性も経験したい、と考えるのが一般的です。育児休暇を女性はもちろんですが、男性も取って育児をします。日本では男性は育児休暇を取らないですね。だれかが変えてくれるのを待つのではなく、自分ができること、気づいたことから行動していくことが大切だと思います。



草津市でフィンランド文化を紹介